

卸売り・小売りの状況

2022年4月26日

資源エネルギー庁

今後のガス政策の在り方をめぐる論点について

- ガスを取り巻く国際状況やガス事業を巡る国内の環境変化、更に本年4月1日の大手3社の導管部門法的分離による制度面でのガスシステム改革の節目を迎えたところ、今後のガス政策の在り方をめぐる論点として、以下の点があるのではないかな。

1. 国際的なLNGを取り巻く情勢の変化への対応

- ◆ LNGを取り巻く国際情勢の変化を踏まえた持続的なガス事業と需要家保護（LNGの開発・調達、小売自由化を踏まえたガス料金の在り方）

2. カーボンニュートラルの実現に向けたガス制度整備

- ◆ エネルギー基本計画等を踏まえた制度改正に向けた動き（高度化法・省エネ法等）と水素や合成メタン等の新しいガス体エネルギーの利用を後押しする制度整備（合成メタン利用時のCO2排出の扱い等）

3. 大手三社の導管部門の法的分離等による環境変化

- ◆ 法的分離等の環境変化を踏まえた、レジリエンスを含むガス供給ネットワーク・ガス供給事業の在り方

4. ガス小売競争の活性化

- ◆ 卸売参入や代理・取次の拡大による事業競争促進の状況の評価、それを踏まえた需要家の利益・選択肢の拡大の在り方

5. 地域エネルギー供給等の主役たる地方ガス事業者

- ◆ バイオガス等の地域エネルギーの地産地消、電気・LPガス等を含むエネルギー・サービスの供給、地方自治体と連携した地域課題解決等

- 1. 家庭用小売参入の状況と旧一般電気事業者のガス事業への参入状況**
2. スタートアップ卸のフォローアップ

第19回ガス事業制度検討WG（2022年3月7日）における委員コメント

旧一般電気事業者の参入状況等

- 新規参入が無いエリアの問題の本質は、電力会社の忖度返しで都市ガス会社が電気事業に参入していないため、**電力会社がガス事業に参入していない**ということではないか。**この構造にメスを入れない限り根本的な改善はない**のではないかと。【橘川委員】
- 本来の潜在的な競争者としては、電気事業者がすごく強く、その**電気事業者がやる気になって参入しているところは競争が活性化**しているが、やる気がないところは競争が全く活性化していないという構造があるということは頭に入れた上で、今後も議論していかなければいけない。【松村委員】
- **ガス小売の競争状況と電力小売の競争状況は関係**があると考えられるため、**両者の相関がある部分、あるいはない部分を注視していく必要がある**と感じた。【二村委員】
- 旧一般ガス事業者の**エリアごとの新規参入者数やスイッチング率には大きな差**が生じている。エリアによって新規参入状況に**差が生じている原因を詳細に分析**いただき、ガス小売競争の更なる活性化のために必要な措置を講じていただくことが今後も重要。【佐藤オブザーバー】
- ガスの市場は、従来からのエネルギー間の競争に加え、**最大の新規参入者が圧倒的に体力に勝る電力会社**という、電力市場とは異なる環境の中で、各社料金メニューやサービスの多様化にも努めており、自由化のメリットも出てきていると受け止めている。今後もこうした形で現状を踏まえた議論をお願いしたい。【早川オブザーバー】

自由化後の小売事業者の登録状況①

- ガス事業法に基づく「ガス小売事業」として95者が登録されている。このうち、越境販売を含め、新たに一般家庭へ供給（予定を含む）しているのは、40者。（2022年4月26日時点）

電気事業者（7者）

- ・東北電力
- ・東京電力エナジーパートナー ※ 1
- ・中部電力ミライズ ※ 1
- ・関西電力 ※ 1
- ・四国電力
- ・九州電力 ※ 1
- ・北海道電力 ※ 1

旧一般ガス事業者（8者）

- ・東京ガス ※ 1
- ・日本ガス ※ 1
- ・東彩ガス ※ 1
- ・東日本ガス ※ 1
- ・北日本ガス ※ 1
- ・西部ガス佐世保 ※ 1
- ・西部ガス長崎 ※ 1
- ・西部ガス熊本 ※ 1

L P ガス事業者（24者）

- ・河原実業 ※ 1
- ・レモンガス ※ 1
- ・サイサン ※ 1
- ・イワタニ長野
- ・赤間商会
- ・ガスバル ※ 1
- ・クリーンガス金沢
- ・有限会社ファミリーガス
- ・有限会社神崎ガス工業
- ・エネックス ※ 1
- ・三ツ輪商会
- ・藤森プロパン商会
- ・日東エネルギー ※ 1
- ・九石プロパンガス
- ・宮崎商事
- ・いちたかガスワン ※ 1
- ・丸新
- ・エルピオ ※ 1
- ・有限会社久富商店
- ・共和石油販売株式会社
- ・宮古ガス
- ・ダイプロ大分販売
- ・関西ガス
- ・新見ガス

旧大口ガス事業者※2（20者）

- ・朝日ガスエナジー
- ・岩谷産業
- ・三菱ケミカル
- ・テツゲン
- ・仙台プロパン
- ・ネクストエネルギー
- ・上越エネルギーサービス
- ・東京ガスエンジニアリングソリューションズ
- ・北陸天然瓦斯興業
- ・合同資源
- ・鈴与商事
- ・鈴興
- ・富山グリーンフードリサイクル
- ・甲賀エナジー
- ・近畿エア・ウォーター
- ・エネクスフリース（事業者名変更）
- ・熊本みらいエル・エヌ・ジー
- ・日本製鉄
- ・プログレッシブエナジー
- ・りゅうせき ※ 1

旧ガス導管事業者※3（8者）

- ・ENEOS ※ 1
- ・石油資源開発
- ・INPEX
- ・三愛石油
- ・南遠州パイプライン
- ・東北天然ガス
- ・エネロップ
- ・筑後ガス圧送

その他の事業者（28者）

- ・日本ファシリティー・ソリューション
- ・豊富町
- ・ファミリーネット・ジャパン ※ 1
- ・エバーグリーン・マーケティング（事業者名変更） ※ 1
- ・中央電力 ※ 1
- ・CDエナジーダイレクト ※ 1
- ・関電エネルギーソリューション
- ・PinT ※ 1
- ・エフビットコミュニケーションズ ※ 1
- ・アストマックス ※ 1
- ・エクスゲート（事業者名変更） ※ 1
- ・CSIエナジーサービス
- ・びわ湖ブルーエナジー ※ 1
- ・島原GEエナジー ※ 1
- ・ひむかエルエヌジー
- ・アースインフィニティ ※ 1
- ・JERA
- ・テプコカスタマーサービス
- ・グローバルエンジニアリング ※ 1
- ・T&TEエナジー ※ 1
- ・東京エナジーアライアンス ※ 1
- ・ミツウロコグリーンエネルギー ※ 1
- ・伊藤忠エネクス
- ・エコログ
- ・百一酸素 ※ 1
- ・四国セントラルエナジー
- ・グランデータ ※ 1
- ・新居浜LNG

（注1）旧一般ガス事業者及び旧簡易ガス事業者のうち、みなしガス小売事業者は除く。

（注2）事業譲渡の場合は除く。

（注3）下線は第44回電力・ガス基本政策小委員会（1月25日）以後に登録した事業者

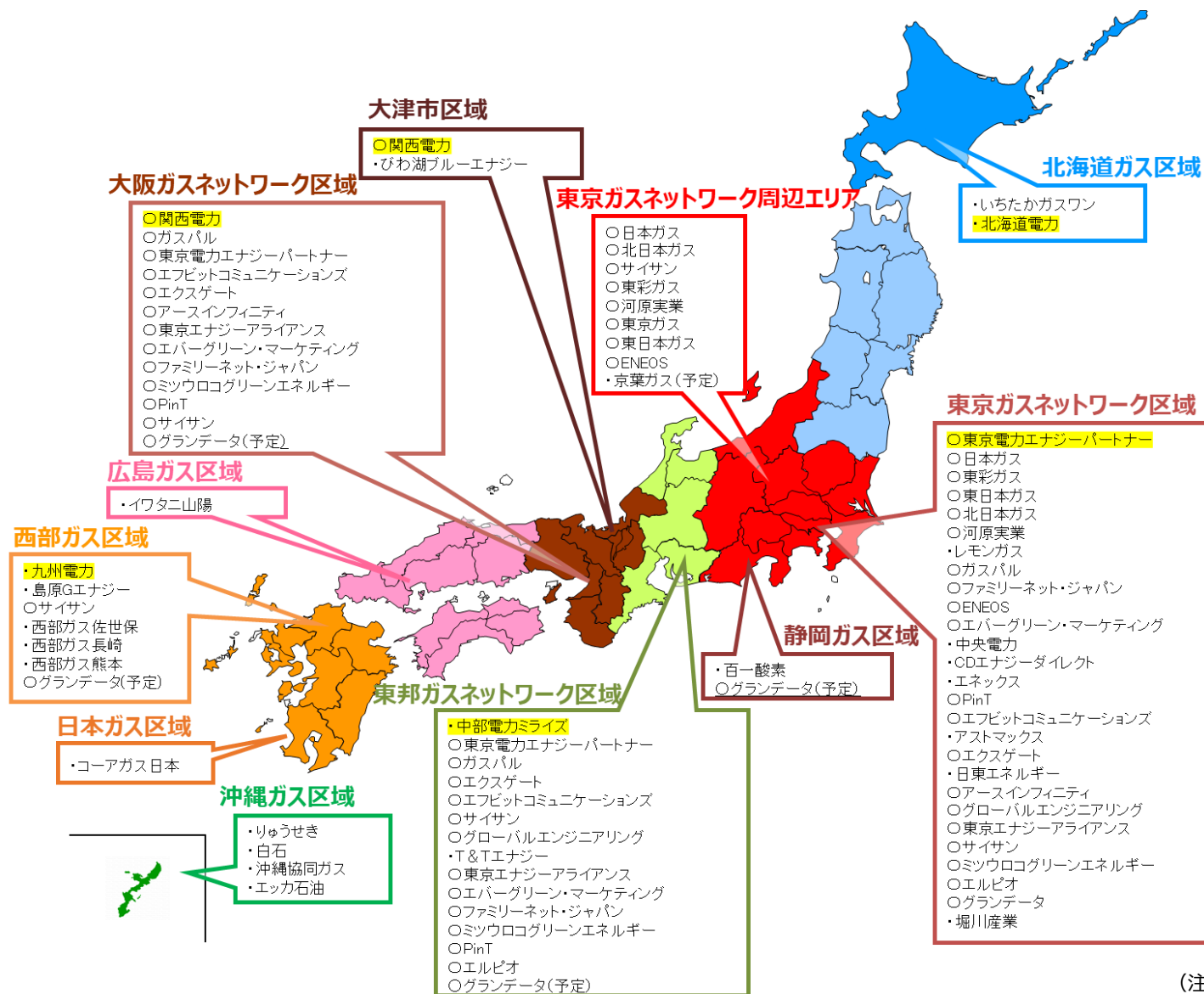
※1 越境販売を含め新たに一般家庭へ供給（予定を含む）

※2 旧大口ガス事業者 年間ガス供給量 10万㎡以上の大口需要家へのガスの供給を行う者で、一般ガス事業者、簡易ガス事業者、ガス導管事業者に該当する者を除いた者

※3 旧ガス導管事業者 自らが維持し、及び運用する特定導管により、卸供給及び大口供給の事業を行う者のうち、一般ガス事業者や簡易ガス事業者等に該当する者を除いた者

自由化後の小売事業者の登録状況②

- 一般家庭への供給（予定を含む）を行っている新規参入者は、以下のとおり。各エリアで新たに参入予定が見られた。（2022年4月26日時点）



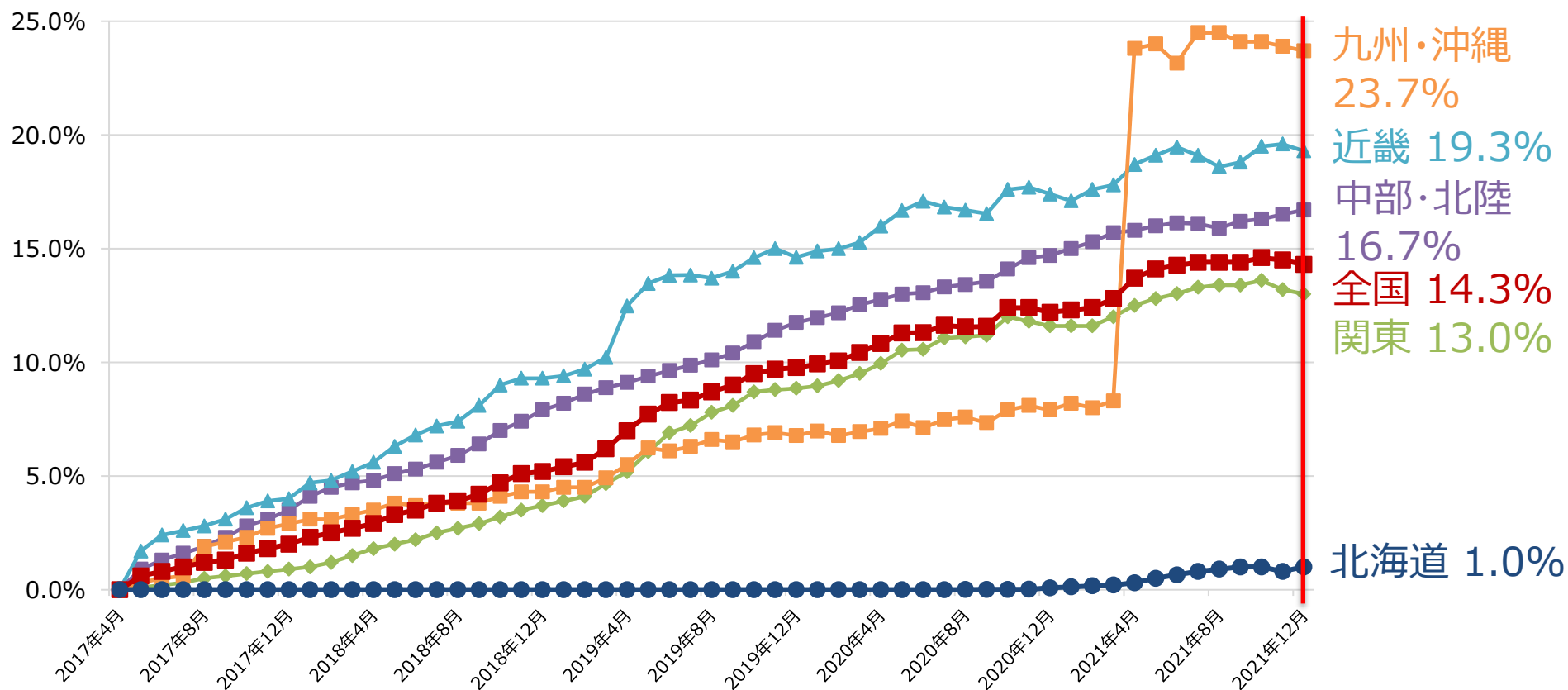
は、供給エリア内の旧一般電気事業者

(注) ○は複数地域に参入した事業者

家庭用の販売量における新規小売の動向①

- 家庭用の販売量における新規小売の割合（全国）は14.3%。
- なお、2021年4月に九州・沖縄地域における新規小売の割合が大きく上昇しているのは、西部瓦斯株式会社の分社化に伴う体制移行による影響であり、市場に大きな変化があったものではない。

家庭用の販売量に占める新規小売の割合（地域別）



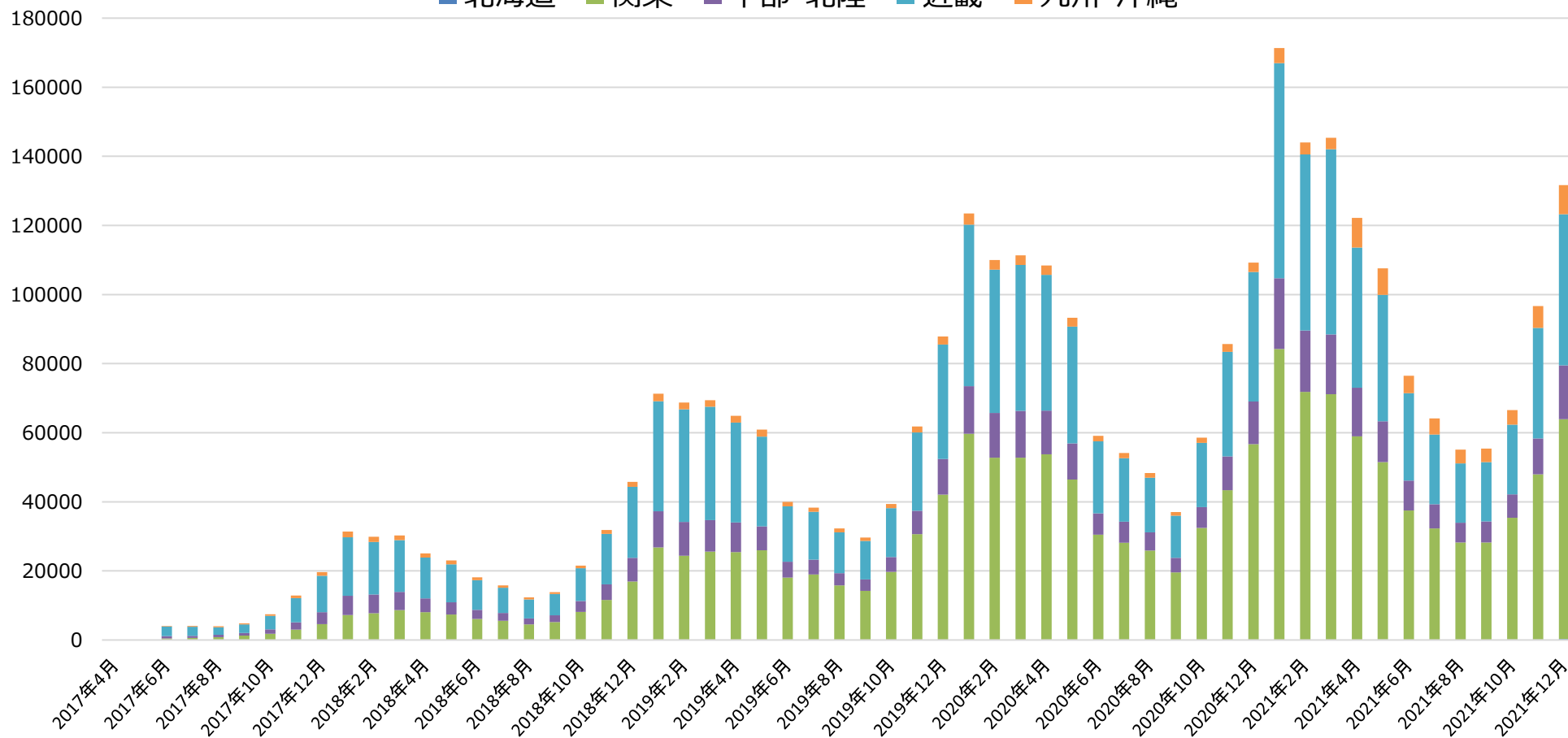
家庭用の販売量における新規小売の動向②

- 季節変動や気候による影響はあるものの、新規小売の家庭用販売量は増加傾向で、2021年12月時点の販売量は過去の同月比で最大となっている。

新規小売の地域別家庭用販売量

(千m³：標準熱量45MJ換算)

■ 北海道 ■ 関東 ■ 中部・北陸 ■ 近畿 ■ 九州・沖縄



エリア別ガスの調達環境

- ガスの調達環境はインフラの整備状況により下記の4つの類型に分類することができる。
- 類型①②では、ガスを自ら製造できる事業者が複数存在しており、小売事業者は卸調達先を選択することが可能である*1,2。

*1LNG基地の第三者利用、ワンタッチ卸を活用すれば全てのエリアで卸調達先を選択が可能

*2ガス事業法による対象ではないものの、類型④エリアではLNGの卸売を行う事業者は複数存在。

ガス卸調達先を選択できるエリア

エリア 類型	①	②	③	④
	◆ 複数の卸売事業者が保有するLNG基地と供給区域の導管が、複数の供給区域をまたがずに接続されているエリア ◆ 東京ガス（東京地区等） ◆ 大阪ガス ◆ 東邦ガス ◆ 西部ガス（福岡地区）	◆ 複数の卸売事業者が保有するLNG基地/ガス田と供給区域の導管が、複数の供給区域をまたいで接続されているエリア ◆ 関東・北信越、関西、中部エリアの3G等 ◆ 仙台市ガス局	◆ 単独の卸売事業者が保有するLNG基地/ガス田と供給区域の導管が、複数の供給区域をまたいで接続されているエリア ◆ ②に該当しない3G	◆ 卸売事業者が保有するLNG基地/ガス田と供給区域の導管が、接続されていないエリア（ローリー等にてLNG供給） ◆ ①②に該当しない2G ◆ 4G
調達環境の概観（一例）				

エリア別ガス卸取引の競争環境

- 類型①②のエリアでは、ガス卸取引の競争が一定程度発生しており、とりわけ関東エリアにおける動きが顕著である。
- なお、ガス事業法による対象ではないものの、類型④エリアではLNG卸取引の競争が発生している。

ガス卸取引の競争が発生しているエリア

エリア 類型	①	②	③	④
	◆ 複数の卸売事業者が保有するLNG基地と供給区域の導管が、複数の供給区域をまたがずに接続されているエリア	◆ 複数の卸売事業者が保有するLNG基地/ガス田と供給区域の導管が、複数の供給区域をまたいで接続されているエリア	◆ 単独の卸売事業者が保有するLNG基地/ガス田と供給区域の導管が、複数の供給区域をまたいで接続されているエリア	◆ 卸売事業者が保有するLNG基地/ガス田と供給区域の導管が、接続されていないエリア（ローリー等にてLNG供給）
競争 環境の 概要	◆ 東京ガス（東京地区等） ◆ 大阪ガス ◆ 東邦ガス ◆ 西部ガス（福岡地区）	◆ 仙台市ガス局 ◆ 関東・北信越、関西、中部エリアの3G等	◆ ②に該当しない3G	◆ ①②に該当しない2G ◆ 4G
	● 東京エリアでは東京EAがワンタッチ卸による供給を積極的に実施。 ● その他のエリアでの卸売事業者のスイッチング実績は限定的	● 関東エリアでは、卸売事業者のスイッチングが発生 ● その他のエリアでの卸売事業者のスイッチング実績は限定的	● 卸取引の競争は発生していない	● ガス卸取引の競争は発生していない ● LNGの卸競争は発生

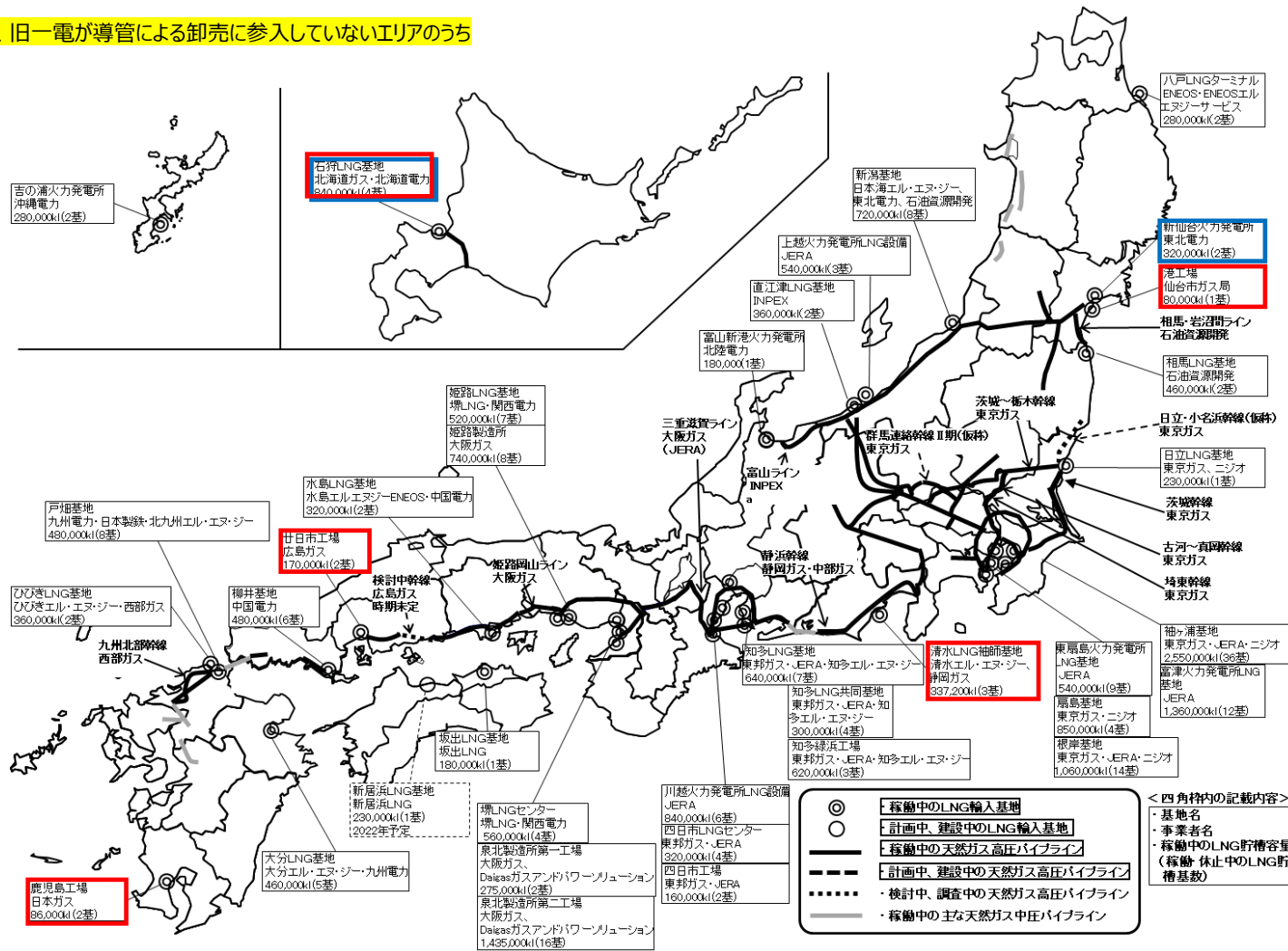
1 G・2 Gの供給エリアにおける旧一般電気事業者の卸売参入状況

- 都市ガスの1G・2Gの供給エリアにおいて、旧一般電気事業者が導管による卸売に参入していないエリアは、北海道ガス、仙台市ガス、静岡ガス、広島ガス、日本ガスの供給エリア。そのうち、旧一般電気事業者が供給区域内にLNG基地を有するのは2エリア（北海道ガス、仙台市ガス）

1G・2Gの供給エリアにおいて、旧一電が導管による卸売に参入していないエリアのうち

 : 旧一ガスの基地

 : 旧一電の基地



旧一般電気事業者のガス事業への参入状況（2022年4月時点）

- 都市ガスの1G・2Gエリアにおいて、旧一般電気事業者が導管による卸売及び家庭用小売参入しているのは、東京ガスネットワーク、大阪ガスネットワーク、東邦ガスネットワーク、西部ガスの供給エリア。北海道ガスの供給エリアは家庭用小売に参入。

供給エリア	供給エリア内の旧一電	供給エリア内のLNG基地（共同基地含む）の有無	導管による卸売参入	家庭用小売参入	導管接続※1	供給区域の規模（需要家数）※2
東京ガスネットワーク	東京電力（JERA）	○	○	○ 東電EP	○ （共同基地有）	約1,200万件
大阪ガスネットワーク	関西電力	○	○	○ 関西電力	○	約750万件
東邦ガスネットワーク	中部電力（JERA）	○	○	○ 中電ミライズ	○ （共同基地有）	約250万件
西部ガス	九州電力	○	○	○ 九州電力	○	約110万件
北海道ガス	北海道電力	○	—	○ 北海道電力	— （共同基地有）	約60万件
仙台市ガス局	東北電力	○	—	—	—	約34万件
静岡ガス	中部電力	—	—	—	—	約32万件
広島ガス	中国電力	—	—	—	—	約42万件
日本ガス	九州電力	—	—	—	—	約15万件

※1 旧一般電気事業者のLNG基地と一般ガス導管の接続状況 ※2 ガス事業便覧（日本ガス協会）より

1. 家庭用小売参入の状況と旧一般電気事業者のガス事業への参入状況
2. スタートアップ卸のフォローアップ

第19回ガス事業制度検討WG（2022年3月7日）における委員コメント

スタートアップ卸

- 新規参入者や、新規参入を考えている事業者の意見をよく聴取し、今のSU卸の仕組みをチューンアップして、旧一ガスも新規参入者とWin-Winの関係を築けるような形で、**第3・第4グループにも適用を拡大することが考えられるかは論点**になる。【草薙委員】
- 安定調達と安定供給と競争促進は矛盾することはないと思うので、可能な範囲でガス小売競争の活性化を図っていくべき。この点、**SU卸は大事に育てるべき**ものであり、6/1ガスWGでは、新規参入者と旧一ガスにヒアリングを行いさらなる利用促進の課題が示されたと思うので、それら**課題を着実に解決していくことがまず必要**。【武田委員】
- 旧一電と旧一ガスの関係問題の一つとして、都市ガス事業に参入しないよりはましと思っているが、いつまでも**旧一電がSU卸を利用し続けることが妥当かという問題は残っている**。この問題も含めて、SU卸の利用拡大に加え、利用状況を含め**小売競争の促進との趣旨に照らした改善を行うことが必要**。【武田委員】
- 新規参入者が旧一ガスとの競争性を確保できる価格水準で都市ガスを調達できるよう、SU卸や、SU卸以外の相対卸取引についても**継続的なモニタリングと評価を実施**していただき、さらなる環境整備をお願いしたい。【佐藤オブザーバー】

第18回ガス事業制度検討WG（2021年6月1日）における委員コメント

スタートアップ卸

- 大手ガス事業者と中小のガス事業者との違いは大きい。また、同じ2グループの事業者さんの中でもかなり状況が違う。**2グループ以下ではあまり進んでいない理由を、もう一度根本から見直すことが必要。**【大石委員】
- **取り次ぎ事業も進んでいる**と聞いているので、**両方を進めるということが今後重要**なため、分析を分けて考えることが有効ではないか。【小林委員】
- 卸の価格に託送料を足してこれが価格になり、そこに競争力があるかないかという点に終始をしている。次に検証する際、**幅を広げて、どのような新しいビジネスの可能性もあるかも探る形で検証**していただきたい【二村委員】
- 上限価格の意味が低い市場価格の場合、単に上限価格での交渉を行うことでは不十分であることは明白。上限価格の見直しも含めて、**より実効性があるスタートアップ卸の制度づくり**を考えなければいけない。【武田委員】
- 利幅が小さいのでこの卸価格では参入できない、新規参入者がもうからないから参入できないという意味であれば、やむを得ないと思うが、**利益ゼロだったとしても、この卸価格では参入できないような価格だとすれば、それは大きな問題**だと思う【松村委員】
- **エネルギー競争が激化する中で**、都市ガス業界に新規参入してくれるというのは、目先は競争になるが、大きく考えれば非常にありがたい話。導管の中はガスしか通せないの、それを増やしてくれるという人たちに対して、やっぱり**前向きな形で柔軟に対応することがガスのために必要**【橘川委員】

SU卸利用状況のフォローアップ 1 / 3 （問合せ事業者の業種）

- SU卸に関する問合せ状況について、第1、第2グループ各社へモニタリング調査を実施。卸元事業者に対して問合せを実施した事業者の業種分類及び問合せ件数は下記のとおり。（2022年3月末時点）

					件
卸元事業者名	その他の小売業 (LPガス)	通信業	電気業・ガス業	機械等修理業/金融商品 取引業・商品先物取引業 /総合工事業/その他の小 売業/総合建設業/各種 商品小売業	計
東京ガス	7 (7)	3 (3)	6 (6)	6 (4)	22 (20)
大阪ガス	4 (2)	0 (0)	3 (3)	2 (0)	9 (5)
東邦ガス	8 (8)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	11 (11)
北海道ガス	9 (9)	1 (1)	4 (4)	1 (1)	15 (15)
静岡ガス	13 (7)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	17 (11)
西部ガス	6 (4)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	11 (9)
広島ガス	3 (3)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	6 (6)
仙台市ガス局	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	6 (6)
日本ガス	3 (3)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	5 (5)
計	55 (45)	6 (6)	24 (24)	17 (13)	102 (88)

※()の数字は第18回ガス事業制度検討WG（2021年6月1日）におけるフォローアップ時（2021年5月末時点）の件数。 ※業種分類は総務省「日本標準産業分類」に基づく。

SU卸利用状況のフォローアップ 2 / 3 （問合せ・交渉等の状況）

- これまでに卸元事業者に対し問合せがあった企業数、契約締結済の件数、契約交渉中の件数、契約交渉が終了した件数は下記のとおり。（2022年3月末時点）

					件
卸元事業者名	問合せ企業数	契約締結済	契約交渉中	契約交渉終了※	
東京ガス	2 2 （ 2 0 ）	4 （ 2 ）	2 （ 2 ）	1 6 （ 1 6 ）	
大阪ガス	9 （ 5 ）	3 （ 0 ）	0 （ 2 ）	6 （ 3 ）	
東邦ガス	1 1 （ 1 1 ）	2 （ 1 ）	1 （ 2 ）	8 （ 8 ）	
北海道ガス	1 5 （ 1 5 ）	2 （ 2 ）	3 （ 3 ）	1 0 （ 1 0 ）	
静岡ガス	1 7 （ 1 1 ）	3 （ 2 ）	1 0 （ 3 ）	4 （ 6 ）	
西部ガス	1 1 （ 9 ）	3 （ 2 ）	3 （ 3 ）	5 （ 4 ）	
広島ガス	6 （ 6 ）	1 （ 1 ）	3 （ 2 ）	2 （ 3 ）	
仙台市ガス局	6 （ 6 ）	0 （ 0 ）	2 （ 2 ）	4 （ 4 ）	
日本ガス	5 （ 5 ）	1 （ 1 ）	3 （ 3 ）	1 （ 1 ）	
計	1 0 2 （ 8 8 ）	1 9 （ 1 1 ）	2 7 （ 2 2 ）	5 6 （ 5 5 ）	

※ 「契約交渉が終了した案件」には、交渉が折り合わずに明示的に交渉が中断したもののほか、利用を検討している事業者から問い合わせがあったのみで、特段契約交渉には発展しなかった案件や、問い合わせ日から3か月を超えて、再度の連絡がない/契約交渉の開始に至らない/交渉に進展がない案件も含まれる。

※()の数字は第18回ガス事業制度検討WG（2021年6月1日）におけるフォローアップ時（2021年5月末時点）の件数。

SU卸利用状況のフォローアップ 3 / 3 (活用実績)

- SU卸を活用して卸供給契約を締結した件数、業種及び卸供給開始時期は下記のとおりであり、**全国で19件の活用実績**がある。(2022年3月末時点、予定含む)

卸元事業者名	件数	業種	卸供給開始時期
東京ガス	4 (2)	電気業・ガス業	2020年4月1日
		その他の小売業 (LPガス)	2020年10月1日
		その他の小売業 (LPガス)	2022年3月30日
		その他小売業	2022年1月1日
大阪ガス	3 (0)	電気業・ガス業	2022年5月1日 (予定)
		電気業・ガス業	2022年5月1日 (予定)
		その他の小売業 (LPガス)	2022年5月以降 (予定)
		その他の小売業 (LPガス)	2021年5月10日
東邦ガス	2 (1)	その他小売業	2022年2月14日
		その他の小売業 (LPガス)	2020年4月1日
北海道ガス	2 (2)	電気業・ガス業	2020年10月1日
		各種商品小売業	2021年4月1日
静岡ガス	3 (2)	各種商品小売業	2022年5月以降 (予定)
		電気業・ガス業	2022年7月以降 (予定)
		その他の小売業 (LPガス)	2021年5月1日
西部ガス	3 (2)	電気業・ガス業	2021年10月1日
		電気業・ガス業	2022年2月1日
		その他の小売業 (LPガス)	2021年8月1日
広島ガス	1 (1)	その他の小売業 (LPガス)	2020年4月1日
日本ガス	1 (1)	その他の小売業 (LPガス)	2020年4月1日
計	19 (11)		

SU卸担当部門の設置状況

- 昨年 6 月のガスWGにおいて、可能な限りSU卸を担当する部門は小売部門から独立させることが望ましいとの議論があったことを踏まえ、昨年 6 月時点でSU卸を担当部署が小売部門に設置されていた 4 社（東邦ガス、日本ガス、北海道ガス、広島ガス）について、現在の状況を確認。
- 4 社はSU卸の担当部門を小売部門と切り離して設置済みとの回答であった。

ヒアリング結果まとめと取組状況の評価（各論②） 担当部門

- 旧一般ガス事業者へのヒアリング結果によれば、SU卸を担当する部門を小売部門と切り離して設置している社と小売部門に設置している社とがそれぞれ存在することがわかった。
- 第 6 回本WGで議論したとおり、卸元事業者が卸先事業者の特定需要家情報を目的外で利用することを防ぐ観点から、**情報管理策の徹底**を実施することが必要であるが、従来、SU卸を担当する部門と小売部門とを分離することまでは取組の内容として求められてはいなかった。
- 他方で、**小売部門が行うガス小売供給に向けた営業活動と、SU卸による新規参入者へのガス卸供給とは利益が相反する行為に当たると考えられることから、旧一般ガス事業者の小売部門がSU卸を担当しては、新規参入者との柔軟な交渉が期待できない可能性がある。**
- そこで、可能な限りSU卸を担当する部門は小売部門から独立させることが望ましいのではないか。仮に独立が進まない場合には、追加的な対応を検討する必要があるのではないか。

情報管理策

- A) 小売業務用から分離された、卸業務専用のシステムアカウント、データフォルダ、メールアドレスを用意する。
- B) 卸業務に関するシステム、情報へのアクセス権限を、卸業務の担当者だけに付与する。
- C) 小売部門の従業員が卸業務も担わざるを得ない場合は、小売と卸の業務時間を分離するとともに、情報管理に関する社内ルールを定める。

SU卸を担当する部署	社数
小売部門と切り離して設置（※）	5 社（東京ガス、大阪ガス、西部ガス、静岡ガス、仙台市ガス局）
小売部門に設置	4 社（東邦ガス、日本ガス、北海道ガス、広島ガス）

（※） 2 か月程度以内に小売部門から分離させる予定である 1 社を含む

➡ **小売部門と切り離して設置済み**
（東邦ガス、日本ガス、北海道ガス、広島ガス）